

研究通信 第2号

岡崎市立東海中学校
令和3年5月19日(水)
研究主任 太田 信

新たにご指導をいただく講師の先生のご紹介

今年度新たにご指導をいただく講師の先生をご紹介します。

至学館大学 健康科学部 こども健康・教育学科 教授 鈴木 正則 先生です。

鈴木先生は「グループ学習」についての研究を進められています。本校の「チーム学習」の推進にあたり大変参考になるご指導をいただけたらと考え、研究へのご協力をお願いしました。

5月14日(金)にご来校いただき、鈴木先生のお考えを拝聴し、本校の研究についての打ち合わせをしました。打ち合わせを通して、鈴木先生が考えられる「グループ学習」と本校の目指す「チーム学習」ちがほぼ同義だと感じました。鈴木先生のお話の概要として以下のようなお言葉がありました。

- ◆ 最も大切なことは、「チーム内においてきぼりをつくらない」という意識を生徒がもつこと。「みんなのできるようになる。みんながわかるようになる」という考え方が大切。
- ◆ 少人数のグループも「チーム」、学級全体も一つの「チーム」と考えたい。
- ◆ 「全員がしゃべる」というルールをつくるとグループ学習は活発になる。そのためには、「まず聞く」という意識を生徒にもたせるとよい。
- ◆ 「司会者」「発表者」というような決められた役割を与えない方がよい。グループ内の誰でも司会者になれて誰でも発表者になれる、そんなグループ学習がよい。
- ◆ グループ学習の「形式」を揃える必要はない。各教科、各単元の実情に応じて教師が柔軟に設定すればよい。
- ◆ 他人に説明するために生徒は学習内容を頭の中で言語化する。その活動で子どもの思考力が深まる。わからない生徒は級友に教えてもらうことで伸びる。
- ◆ グループ活動のルールを生徒に決めさせると生徒がやる気になる。学習も活発になる。

鈴木先生が本校の打ち合わせのために用意してくださった資料を2枚目以降に綴じます。(Team Sに入られている方はデータでお送りします) 資料の中にある鈴木先生の著書「小学校算数グループ学習大全」は、太田席後ろの“研究本棚”に置きます。ご自由にご覧ください。

鈴木先生からは「モデルクラス」をつくることをご提案いただきました。そこで、1年2組と2年1組をモデルクラスとすることとしました。早速6月4日(金)に2年1組(3時間目)と1年2組(4時間目)の授業を鈴木先生に参観していただきます。参観後、後日鈴木先生にはTTのような形で授業に入ってください、チーム学習の進め方について、実際の授業を通してご指導いただく予定です。

連絡

6月4日(金)の鈴木先生の授業参観に当たり、以下のように時間割変更をさせていただきます。

6月4日(金)	3時間目	2年1組	国語	→	数学
	5時間目	2年1組	社会	→	国語
6月7日(月)	2時間目	2年1組	数学	→	社会
		2年3組	社会	→	数学
	5時間目	2年3組	数学	→	社会